

# NAGANO-KEN CLUB

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>  
[jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](mailto:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)

JIA 長野県クラブ

vol.66  
2005  
07.01

## 自律と自立て社会にアピール!! (行動で示すとき…結果の評価は…)

—— JIA長野県クラブ会長 高橋 重徳

私達JIAを取り巻く状況は、様々な社会環境や価値観の変化に伴い、大変革をなす時期にあります。今までの既成概念や既存体質から一歩抜け出し、新たな理念のもとに未来ある方向を再構築する重要な時もあります。

こうした中、会内外の諸問題が、たとえ厳しく難しい状況にあっても、市民や消費者を中心に据えた的確で精度の高い対応を益々求められる事になるでしょう。こうした対応を迅速かつ継続的に実行することで、新しい展開が生まれる事にもなるでしょう。

「現況はどうでしょうか。」一般的に設計や監理の社会の正しい理解と評価は不足しており、まして建築家の職能の理解は、ほとんど無いと言わざるを得ません。もちろん、会の存在さえも知らないのです。私達はこのような現状を謙虚に受け止め、反省し、将来に向けて足元から地道に努力する必要があります。

「市民や消費者になぜ理解してもらっていないのでしょうか。」その原因は情報が不足しているのではなく、情報量と種類の多さで的確に判断する事が難しい状況であると考えられるのです。

「私達はどうすれば良いのでしょうか。」まず社会に正しいと信ずる情報を積極的に、且つ明快に提供すること。そして職

能の理解をより深めてもらうための惜しみない説明責任を果たすことには繰り返し努力するエネルギーが必要です。

「これらの行動は会員それぞれが自律と自立て実践すること。」そして会は会員をサポートすると言う重要な役割を担っていくことが大切です。あくまでも達成のための主役は会員ひとりひとりであり、その自覚が必要です。こうした行動によって、私達の存在が認知、支持され、結果として社会の既存の価値観さえも変えることが出来るのではないかでしょうか。

「私達JIAは信頼を得るために。」どの会よりも先駆けて『CPD』や『登録建築家制度』の推進を進めています。地域社会の状況をリアリティをもってとらえ、積極的に社会にアピールすることが今一番求められています。それには『愛と情熱の家づくり第3集』の活用、展開も一つの方法です。未来への扉のチャンスは膨らむものと信じています。

皆さんの尚一層の努力とご協力、ご支援をお願い致します。



JIA長野県クラブ通常総会



JIA長野県クラブ 学生卒業設計コンクール 表彰式 (後列)受賞者の皆さん  
(前列左より)高橋会長、宮本審査委員長、松原支部長

## 支部保存問題委員長の自覚？



今年からJIA関東甲信越支部の保存問題委員長になってしまいました。

昨年まで長野から委員だった依田さんに代わって、言われるままに東京へ月一回の定例会に出かけて行ったが、都合が悪く二回程欠席している間に承諾なしで「決まった。」とのこと。理由は三年前の保存問題長野大会の折、「信濃の国」を大声で歌つたり、宮本忠長先生にくつてかかったり印象に残ったからとのこと。今までの歴代委員長は品性と理性のある人格者たちである。しかし人前で勝手なことは言えても他人の意見を聞くことが全く苦手な私には品性と理性のかけらも持ち合わせていない。ゆえに恥さらしと苦痛以外の何ものでもないと弁明したが、聞き入れてもらえなかった。

## 支部保存問題委員長 川上 恵一

恥を忍んで受けざるを得ないとすれば、明治以降の先輩たちが造ってきた大いなる建築、各地域に残っている近代建築遺産の価値を再認識し、あらゆる形で保存すべく活動することだろう。

これらのものが壊され続けている現実の中で住民が直感的に危機を感じて保存運動が拡がっているのに一体専門家といわれる私達は何をやっているのか。「新しさ」というだけでは発想の貧困につながり、うすっぺらな建築を造り続けているのではなかろうか。私達が建築の進歩を信じるならまずもう一度歴史に学ぶべきであり、その上で未来の豊かさを確実に実現させ継続するものでなくてはならない。

紙面がなくなった。まあ少しでも過ちに気付いた委員会のメンバーと一緒に懲りの気持で保存問題に取り組もうではないか。県クラブの皆様のご協力を切望するのみです。

## 「信州の建築家とつくる家」制作発表座談会



5月11日、発刊と同時に制作発表座談会を行ないました。今までの経過報告と御礼を僕が述べさせていただき、その後制作部会のメンバーの代表者と会場との意見交換を行ないました。この本を広く公開することによりJIA長野県クラブの活動を一般の市民の方に認知していただきたいというテーマを主に会場から多くの貴重な御意見をいただきました。またクラブの新入会員の増強のためにもこの本を見て是非仲間に入りたいという方の声をお待ちしております。この本は長野県クラブ全員の、今生きている宝です。

この本を各行事等の機会に販売し、また公共性のある場所に広く置き是非市民の皆様にお役立ていただきたいと願います。

本のお問合せは、  
オフィスエム  
(026-237-8100)  
へ。A4版192  
ページ、1,500円。



## 会員委員長 片倉 隆幸

## 卒業設計コンクール公開審査に参加して 甘利 享一



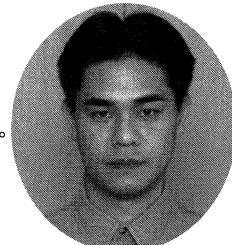
去る3月13日長野国際21に於いて、学生卒業設計コンクールの公開審査会が開催された。工業高校、専門学校、大学の部と合計41点の卒業設計が提出された。私も事業委員会の一人として前日午前10時より会場準備に取りかかった。

高校の部は、各学校により表現方法が異なり、内容的には飯田長姫高校のレベルの高さと他校との差が歴然としており同じ教育プログラムで学んでいるのに、教え方の違いなのかなと首をかしげたくなる心境であった。また、専門学校は、学校によって差異は感じられるがレベルはかなり接近しているように見えた。テーマに対して造景的に物不足を感じ得た。大学の部は審査直前まで設計図、模型を持ち込む学生がおり会場設営に大わらわであった。

会場設営も終り公開によるヒアリング、プレゼンテーションと審査と進んだが、プレゼンテーションに於ける学生達のうまさには感嘆させられた。この段階で各部門別に5~6点に絞られ最終審査に入った。公用による審査員と出品者とのやり取りが緊張感の中にも楽しさと新鮮味があり有意義な一時でありました。

宮本審査委員長を始め長野県クラブの審査委員の皆様大変お疲れ様でした。荻原委員長を中心に2日間にわたり協力頂いた会員、賛助会員の皆様もご苦労様でした。

## 第13回文化講演会に参加して 中家 博之



去る3月12日にホテル国際21にて第13回文化講演会が第一工房代表・高橋龍一先生をお迎えして「建築のクロスワード・対極にあるもの」との演題で行われた。

ゆっくりと静かな語り口で講演は始まった。まずは若い頃の戦争体験談や通信省に入って建築の持つ力に感動した事、大正初期の新生日本の心意気を支えた先輩方の努力に對して感謝すると共に敬意を表された。

演題については、アメリカのある言語学者の話しを例に言語の持つ影響力の大きさを問われた。そして環境と建築の関わりについて、「建築は環境を汚し負荷を与えるものである」この負荷を軽減させる為には建物の寿命を伸ばす事が重要であり今後より一層に強く求められると力説された。この事は建築に携わる我々にとって環境の中で、建築の負荷を出来るだけ与えずにどう共存を図れば良いかを考えさせられるものである。

建築は文化そのものであり、建築は土地、風土との関わりを理解して造る事が大切である。又、建築は素材が大事である事をこの「素材」を主眼にしたスライドによる代表作品の紹介がなされた。

現役最高齢の建築家として今もなお研究心に衰えがなく第一線で活躍されている姿を拝見し、頭の下かる思いと感動を受ける事が出来ました。大先輩の貴重な話を聞かせて頂き大変に有意義な講演会になりました。

# 長野県学生卒業設計コンクール2005

## 長野県学生卒業設計コンクール2005 審査講評

審査委員長 宮本 忠長

信州大学工学部社会開発工学科の学生諸君の傾向は、ここ数年をみる限り地味なれどアリティのあるテーマが目立ってきた。それは、社会環境に前向きに取り組んでいる証拠であって好印象を与えてくれた。

金賞は、小諸市、北国街道に面した町家の整備計画である。歴史街道の町家に、新生の息吹を与える優作であり、建築家の視座を見失うことなく歴史の連續性を創出したもので、審査員一同の推奨であった。その他、市内の市民病院、小学校等々にみる設計姿勢は、評価が高く佳品である。

高専、専門学校の部では、表現は一応のレベルを保っているが、総じて少々乱暴であった。建築は空間の芸術であると同時に、利用者、市民のものという要素があることを忘れないと嬉しい。イメージの具象化の段階で、スケールオーバー

がありはしないか、一步立ち止まって振りかえるプロセスが欲しい。制作期間の問題があったかもしれないが、総じて少々物足りなかった。然し、個々の作品に、将来への希望を想わせる佳作も目立つ。

さて、工業高等学校の部では、学校の教育方針の差が著しいことが判った。私は、学校実力格差とは思いたくない。デザインに対する教育演習の指針に学校教育の差があるのであろう。飯田長姫工業高校の作品が上位を独占したことが、何よりそれを物語っている。設計演習の時間、創作に対するテーマの持ちよう等々も少し時間をさいて貰いたいと思うのだ。デザインの芽は、工高生時代に既に相当培われてしまうのだから。

も一度、是非再考をお願いしたいと思う。

審査委員名 委員長：宮本忠長 委員：高橋重徳、松下重雄、久保隆夫、赤羽吉人、児野 登、川上恵一、西沢利一 群馬クラブ：米田雅夫

### ●大学の部 入賞作品

賞	氏 名	学 校 名	作 品 名
金	盛永 由衣 寺田 茜	信州大学工学部 社会開発工学科	信州小諸与良町の民家再生計画
銀	岡 憲太郎	信州大学工学部 社会開発工学科	GREEN CLOTHXCROSS
銅	西 若葉	信州大学工学部 社会開発工学科	亀岡中学校・亀岡高等学校 一体化計画
特別	中尾 友之	信州大学工学部 社会開発工学科	hospitality-町の病院

### ●専門学校の部 入賞作品

賞	氏 名	学 校 名	作 品 名
銀	柿澤 嘉紀	上田情報ビジネス専門学校 建築CAD科	widespread regatta
銅	家高 源	上田情報ビジネス専門学校 建築CAD科	山の火葬場「山葬生館」
特別	今井 秀明 藤森 雄治 寺澤 拓人	国際コンピュータビジネス 専門学校 建築CAD学科	RI(仮設住宅村の提案)

### ●高校の部 入賞作品

賞	氏 名	学 校 名	作 品 名
金	石崎 裕貴	飯田長姫高等学校 建築科	みのり村
銀	小林 加奈	飯田長姫高等学校 建築科	県立阿南病院再生計画
銅	伊藤 歩	飯田長姫高等学校 建築科	よむとすin飯田

### コンクールに参加して

国際コンピュータビジネス専門学校 建築CAD学科 教諭 小池 成仁

展示を一目見て、「やられた」と思った。16年度の賞は上田さんにもっていかれ、口惜しいはずが、むしろ爽快なスリルを感じた。戻って、校内ネットで報告した。「コンクールはこうでなければいけない。俄然やる気が出てきた」と。

公開審査でコンクールはよりホットな存在となった。かつて作品だけが出かけていき、賞をいただいて主のいない学校へ帰るだけだったものが、プロの声を直接聴き、他校の優れた作品に触れ、客観的に見る自分の位置づけと世界の広さを知る得がたい体験の場となった。手探りだった指導も、大きなヒントをいただき学校にとっても大変有り難い。

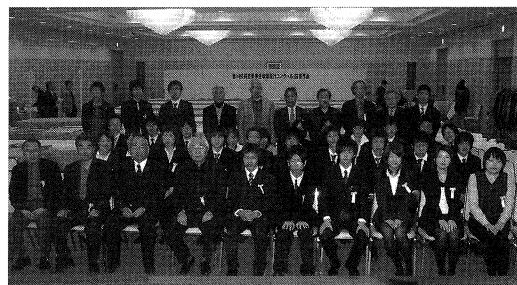
先輩の貴重な経験を次の世代にいかに伝えるかが目下の課題。入学間もない5月に授賞式に参加し、「ぼくたちもがんばるぞ！」と燃えたはずの現2年生は今やコンクールのことなど忘れた涼しい顔。「鉄は熱いうちに打て」とはいうものの、昨今の鉄は性質も変わり打つ間も与えず急冷するので困る。

### 受賞コメント 信州大学工学部 社会開発工学科 盛永 由衣・寺田 茜



今回は名誉ある賞をいただきありがとうございました。卒業設計として取り組んだ課題でしたが、学内だけではなく公の場で評価して頂き、自信がつきました。改めて自分の作品を見つめ直すことができ、全国コンクールで評価を得たいという大きな目標が出来ました。去年の秋から実測調査やフィールドワーク、ヒアリングなどを通して、敷地である小諸には何度も足を運びました。ヒアリング調査では、地域の方にお話を聞く機会が多く、人の温かさや地域を愛する気持ちが伝わってきました。どんなものを建てればいいのか、どんな活用のしかたがいいのかは、そのなかで自ずと見えてきました。

人々の生活とともに歩んできた「民家」を、住民にとって身近な「みんなの場所」として再生することで、コミュニティが広がり、強くつながっていくのではないか、地域の民家をその歴史や思い出と共に残していくことで、特色あるまちづくりが出来ていくのではないかと私たちは考えます。



学生コンクール風景



高遠といえば、すぐに思い浮かべるのが全国に知れた桜の名所、毎年4月中旬になると薄紅色の高遠小彼岸桜の美しさとそれを見ている人ごみのものすごさがテレビや新聞で報道されます。年間観光売り上げの三分の二をこの時期に上げるというから驚いてしまいます。高遠は芸術に造詣が深かった高島藩の城下町、以前当地での鑑定団の番組がオンエアされた時、当地の視聴率が日本一だと言っていたことを思い出しました。そんな高遠に5/28、約30名のウォッチャーが集まりました。

高遠のまちづくりは昭和61年に都市計画街路事業が許可になったところから始まります。街の中心部を通る伊那高遠線の拡幅に合わせて町並みも修景してしまおうと言うものでした。キャットフレーズは、白壁と瓦屋根、講師の小松忠彦氏に再開発の説明をして頂いた後案内もして頂きました。

街をぐるっと見て回り概ね2時間、城址公園に上る途中で街が俯瞰で見られる藤沢川が真ん中をうねり左岸に桜の城址公園、右岸に傾斜地をうまく使った白壁に瓦の建物、一段高くなっている街道筋に修景された商店が並び山沿いに多くのお寺が木陰に見え隠れするコンパクトにまとまった大変魅力のある街です。

家屋の敷地は間口が狭く奥行きの深い町家風の区画で奥に土蔵が残っているお宅もかなり残っています。

石工で有名な土地柄なので魅力のある石仏も多く有り古くからの町名もなかなか粹です。まちづくりの素材がふんだんに有りそうです。

はじめは道路拡幅から始まった線が伸び面に成ろうとしているところです。まだまだ完成度は高く有りませんが、一番大切な住民の意識改革は確実に進んでいるのを感じました。これからは観光だけでなく地域のコミュニティの展開が期待される。見学後の意見交換会の内容は町への提言として提出されました。

また来たいと多くの方が思った様です。せっかく来たのだから高遠饅頭を買ってお世話になった小松さんの処でおそばを食べて最後にさくらの湯に入って帰りました。



## 「JIAリフレッシュセミナー」に参加して

### 林 隆

3月13～15日、熱海で行われ参加させていただいた。全国から集まった20名と、講師・教育関連事業委員の先生方10名による勉強会。ふたつのセミナーとディスカッション、最終日にはテーマ毎に2グループに分かれて考えを発表するという日程。夕食後もまとめの準備に追われるという濃密な3日間だったが、先生方とお酒を飲みながらお話ができるわずかな時間も楽しいものだった。

#### 【セミナー1】「海外建築デザイン市場の現在」講師：山本理顕氏

北京の70万m<sup>2</sup>の集合住宅など進行中の3つのプロジェクトについて。中国では外国の優秀なデザインを消費し蓄積している現状、そして監理という概念がない中でいい物を創りたいという熱意をクライアントと共有することが重要で、それに関連す

る苦労話は驚くことばかりだった。文化の違いや物理的な制約をクリアする以外に、「自分でこれをやりたい」という強い意思がないと建築を創る意味がなくその壁を乗り越えていく力が必要！ということを教えてくれた。

#### 【セミナー2】「建築家の倫理と社会」 講師：芦原太郎氏

いい建築家って何。今さら倫理とは。どうして倫理規定が必要なのか。というような話からはじまり、最終的には「自分の倫理でしっかり設計すればいい。それは個人の判断による。」ということできました。横河健氏や古谷誠章氏らも加わっていただき議論の中では、「建築家は自分が正しいと思うことを世に問うことが必要。社会的批判を受ける職業である。」というお話を印象的だった。

## 新入会員の紹介

### 北原 一樹

自己紹介に代えて、なかなか出来ないでいる事を、であるべきと考えている事を。

少なくとも、社会的な営為である建築という作業からコミュニケーションという手段を排除しないように。少なくとも、人間という有機体が動くための建築という箱において機能を満足するように。そして、自分たちが造るものすべてが、公共圏の一部をなしている事を忘れないように。さらには、機能は短いスパンにおけるプライマリーではあるが、長いスパンにおいては二次的な問題でしかないように。

「建築とは未完のいろいろな場の集まりなのだ。未完とは可能性。未完である、建物という物体は希望という未来へのエキスを一滴注ぎ込み、建築となる。」(松山 嶽)

## 新入会賛助会員の紹介

### (株)ランバーテック 丸山 淳治



この度新規に賛助会員として入会させていただきました、松本市のランバーテックと申します。建築士事務所協会松筑支部のまちづくり委員会の活動を通じて、建築家の皆様の町並みや景観・建築物への熱い想いと献身的な社会奉仕に大変感動し、是非建築家の皆様の活動に少しでもお役に立てればと考えています。当社は社会的な資産でもある木造建築物が末永く愛され続けるため、また大切な家族が健康的に暮らし続けられるよう、木材保存技術、断熱・気密・換気・防音技術、エネルギー計算・各種測定技術、維持管理技術等を通じて地元の建築家の皆様や御施主様に貢献していくたいと考えております。今後とも宜しくお願ひいたします。

## 編集後記

1ヶ月遅れになりましたが17年度最初の会報をお送りします。各委員会事業の中で、大好きな事業は町並みウォッチングと建築見学会です。会員が愛と情熱をかけて考えた作品や、思いをウンチクを聞きながら歩き、見学をする事は私にとって事務局の作業を進めていく上で多いに役に立つからです。これからも沢山見せて下さい。……………事務局 山本 和子

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。